

令和8年度用

改訂新版

数学の新研究

広島県 高校入試情報

令和7年度広島県入試の全体傾向

●入試問題の構成と特色

- 大問数は6問、小問数は18問でほぼ例年どおり。
- 大問1は各領域の基本問題、大問2は整数の問題、三平方の定理と空間図形、データの活用、大問3は連立方程式の利用、大問4は関数、大問5は証明(穴うめ、完全記述)を含む円、大問6は確率。
- 大問3の連立方程式の利用の問題は、答えを求める過程も書く。
- 大問6の操作をもとに考える確率は、問題分が長い。
- 全体的に活用の問題が若干増えた印象。全文記述の証明問題や解き方の説明など、記述力を身につけるよう対策しておきたい。

★広島県の入試は、『数学の新研究』でバッチリ！

■ 証明問題の出題

・例年どおり、図形の証明問題が出題された。全文記述式の出題であるため、記述式の証明問題への対策が必要である。

新研究で対策！

- 「ウォームアップ特集 合同の証明」(p.82～83)、「フォロー特集 マチガイから学ぶ！答案の書き方のコツ～図形の証明～」(p.96～97)で、証明のポイントや、証明の書き方のコツを詳しく解説しています。
- また、「共通部分を見つけよう！合同と相似の証明」(p.182～183)で、集中強化できます。

■ きまりをもとに考える問題の出題

・きまりをもとに考える問題がよく出題されている。問題文をしっかり読みこなし、そのきまりに従って解く力をつけておく必要がある。

新研究で対策！

- 「ルールをおさえよう！きまりをもとに考える問題」(p.178～179)で入試のポイントをおさえ、集中強化することができます。

文章の長い問題も出題されるので、問題文をよく読んで意味を理解する練習をしておきましょう。



★広島県入試出題内容別・形式別傾向分析(過去4年間)

出題内容別の傾向	単元名／項目	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	1年内容				
出題内容別の傾向	正の数・負の数	●	●	●	●
	文字と式				
	方程式	●		●	
	比例と反比例	●	●	●	●
	平面図形			●	
	空間図形	●	●	●	●
	データの分析と活用	●	●		●
	2年内容				
	式の計算	●	●		●
	連立方程式		●	●	●
	1次関数	●	●	●	●
	図形の調べ方	●	●	●	●
	三角形				
	平行四辺形		●		●
	確率	●	●	●	●
	データの比較と箱ひげ図	●	●	●	●
	3年内容				
	式の計算	●	●	●	●
	平方根	●	●	●	●
	2次方程式		●		●
	関数 $y=ax^2$	●	●	●	●
	相似な図形	●	●		
	円の性質	●	●	●	●
	三平方の定理	●		●	●
	標本調査			●	
出題形式別の傾向	大問数	6	6	6	6
	小問数	18	19	20	18
	記述問題				
	図形の証明(説明)	1	1	1	1
	その他の説明・証明など	2	1	2	
	立式・解法の過程の記述		1		1
	作図(図形)				
	作図(グラフ)	1		1	

★新研究で出題した広島県の入試問題(令和7年度)

p.9大問4(1),p.115大問6